



ごみのこと、未来のこと、 誰もが知りたいし、 役に立ちたい

NPO法人 豊中・伊丹環境政策フォーラム 理事長 ^{わたなべ} ^{のぶひさ}
渡辺 信久

大阪府豊中市と兵庫県伊丹市は、ごみ処理事業を「一部事務組合：豊中市伊丹市クリーンランド」で共同で行っています。現在、施設更新の時期に来ており、2012年度にリサイクル施設が、2014年度に焼却施設が竣工する予定です。この建設を行うにあたり、環境学習の拠点的役割を担うことが求められました。2009年3月に設立された「NPO法人 豊中・伊丹環境政策フォーラム(理事長：渡辺信久、会員数41名)」は、2010

年度現在、この環境学習プログラムを開発・実施しています。

まず2009、2010年度に取り組んだのは、豊中市伊丹市クリーンランドの施設見学をベースにした環境学習です。ごみ処理施設は、小学生の「社会科見学」の定番になっていて、とくに、春から夏にかけては、ほとんど毎日、見学案内をしています。やってみて気がついたことですが、「教えてあげる」案内の仕方より、「わたしたちも、ごみの行方を知りたいのだ」



豊中市伊丹市クリーンランドリサイクルセンター

という意気込みで接するほうが、評判がいいようです。

見学対応だけでなく、環境イベントを実施することもあります。ごみ処理とは直接関係はないのですが、人力テレビ——リキテレ——を作りました。本誌でも、たびたび記事を掲載している「ひのでやエコライフ研究所」の鈴木靖文さんからヒントをいただいたものです。人力発電で、テレビを点けようというものです。一日の人の食分量、約2000キロカロリーは、1秒あたりに直すと、約100ワットになります。液晶32型の省エネテレビは60ワットですから、少し強引ですが、人力で点けることができます。改造した自転車に風力発電用の発電機を取り付け、地上波デ

ジタルテレビにつなぎます。26インチの自転車をこげれば、誰でもテレビを点灯することができます。下の写真は、大学の学園祭に出品したときのものです。子供に人気があるだけでなく、子供に長時間テレビを見させたくない、あるいは、電子ゲームをさせたくない親にも、人気があります。ごみのこと、資源のこと、エネルギーのことについて、誰もが「もっと知りたい」、「未来のために役に立ちたい」と思っています。私たちの環境学習活動は、行政で策定する中・長期的な計画の実施に、まさに当てはまると思っています。「一部事務組合：豊中市伊丹市クリーンランド」という現場からの発信ならではの、着実な「気づき・行動」を進めていきます。



大学の学園祭に出品した人力テレビ“リキテレ”